

学校教育目標	本気で勉強しよう 心をみがき、体をきたえよう 人のためになろう
目指す学校像	「笑顔あふれる宮前小」 ○あいさつが響き合う学校 ○子ども一人ひとりが、生き生きと活動する学校 ○子どものために、全職員が共に励まし、力を合わせて働く学校 ○絆を深め、保護者や地域の人々と協働する学校 ○明るく、清潔で、美しい学校
重点目標	1 学びの質の向上に：学校課題研修の推進と教職員の指導力の向上 2 子どもの発達や心のサポート：教育相談体制の充実 3 地域とともにある学校づくり：地域・保護者と絆を深める学校づくりの推進 4 教育環境の整備：安全安心な環境整備と施設管理 5 教職員のキャリア形成：プラントを活用した研修の推進と教職員の勤務時間の管理

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
		年 度 目 標				年 度 評 価		実施日令和8年2月4日		
		番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に関する取組	心の子どもの発達やサポートに関する取組	1	<p>〈現状〉</p> <p>○R6 全国学調の「知識・技能」では国語 6.7p 減・算数 3.7p 増、市学調の「知識・技能」において、国語 10.2p 増・算数 0.3p 増であった。</p> <p>○R6 全国学調の「思考・判断・表現」では国語 2.3p 増・算数 4.0p 減、市学調の「思考・判断・表現」において国語 5.1p 減・算数 1.7p 減であった。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○学習を振り返る経験はあるが、学び方は適切だったか、その時間の課題を達成するために自分の学習能力は満足するものか、達成できない際はどのような力が足りないのかという振り返りをできるようにするための手立ての検証。</p>	○学校課題研修「学びのつながりを意識して、自分の考えを広げ深められる児童を育成」の推進	○教科部(国語・社会・算数・理科)ごとに市教委より指導者を招き、研究授業・研究協議会を実施する。また、研究授業者以外の教員もいずれかの教科で授業を公開する。	○R7 全国学調及び市学調の国語・算数の「知識・技能」「思考・判断・表現」の自校結果を R6 の値より向上させることができたか。 ○各教科における「宮前スタイル」を全教職員が日々の授業で実践できたか。	○R6と比較して、R7 全国学調の自校結果は「知識・技能」で国語 11.3p 増、算数 4.0p 減、「思考・判断・表現」で国語 2.0p 増、算数 0.5p 減であった。 ○各授業研究部で設定した宮前スタイルを取り入れた授業実践をすべての教員が行い、教職員間での参観も行った。	B	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じた授業改善は「宮前スタイル」を推進することで進んでいるが、基礎学力の定着のためにタブレット等を使った児童それぞれの課題解決の時間も確保していく。	○全国学力学習状況調査の結果で国語が大きく伸びたことから評価できる。 ○ICT機器の活用も進んでいるように評価できる。 ○学校課題研修の「個別最適な学び」「協働的な学び」の研究成果を知りたい。成果を公表しているかどうか。 ○もともとのシンプルな学び方も大切にして、基礎学力の定着も図ってもらいたい。
			<p>〈現状〉</p> <p>○心と生活のアンケート後の面談は時間を確保して児童一人ひとりと話を聞くことができている。また、詳しく記録を残している。</p> <p>○SC、SSWと担任の情報共有ができている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○SC、SSWとの面談時間の優先の調整 ○学びの多様化を図るためのSola 一むの充実</p>	○教育相談体制の充実	○教育相談主任を中心に、SC、SSW及び生徒指導主任、特別支援コーディネーターと連携し、連絡調整、情報収集、情報共有を行う。	○R7学校自己評価「教育相談」に係る項目に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合が R6 より増えたか。	○「教育相談」に係る項目では、肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合が R6 より増えているかほぼ同じで高い評価であった。	A	○いじめや不登校、生徒指導の相談体制や情報共有は組織的に行うことができている。今後も継続して、児童理解や指導方法について推進委員会できめ細かく検討していく。	
地域とともにある学校づくりに関する取組	教育環境の整備に関する取組	3	<p>〈現状〉</p> <p>○R6 学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする割合は、児童±0p・保護者 2.6p 減・教職員 3p 減・地域±0p であった。</p> <p>○地域・保護者に向けて50周年記念行事等を公開し、参加者から好評な意見がもたらえた。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○あいさつの励行は、特別活動部を中心に継続して地域・中学校と連携して取り組んでいく。 ○学校運営協議会で、学校での児童の活動の様子がもっとわかるようにしてほしいというご意見をいただいた。</p>	○地域・保護者と連携した「笑顔あふれる」あいさつの励行	○おはよう活動を1学期は学級単位で、2学期は縦割り異年齢グループと地域(育成会)で、3学期は児童会と中学生徒会で実施する。	○R7学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合が R6 より増えたか。 ○地域・中学校と連携してのあいさつ運動を各学期1回以上実施できたか。	○「あいさつができる」の質問に児童は R6 より肯定的な回答の割合が高くなっているが、地域の方々から改善の意見が多い。 ○中学校の生徒会と連携したあいさつ運動が2回、育成会も複数回「あいさつキャンペーン」中に参加いただいた。	B	○「あいさつキャンペーン」はクラスごとや異学年のグループごとに実施でき、中学生や育成会の参加もいただけたが、「学校でも地域でも自分から明るく」できるような地域やPTAの協力もお願いしていく。	○あいさつキャンペーン等にも力を入れていることが分かった。当事者の評価は低くはない。 ○特色ある教育活動を保護者へ公開する機会が増えたのはよかった。気軽に参加できるようになればよい。 ○特別支援学校等、近隣施設と連携して、交流の機会を設定できるとよい。
			<p>〈現状〉</p> <p>○R6 学校自己評価「安心・安全」に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童の割合は8割以上の肯定的な回答を得ることができた。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○安全指導の充実・徹底を図り、児童に「自分の身は自分で守る」意識をもたせるとともに、保護者、地域と連携しての見守り活動の一層の強化に取り組んでいく。</p>	○地域・保護者に向けた教育活動の公開・発信	○地域・保護者に向けての特色ある学校行事・学年行事等を公開する。 ○学校HPに活動の様子を掲載する。	○各学年が特色ある行事を公開できたか。 ○公開行事参加者から肯定的な意見がもたらえたか。 ○学校HPの教育活動の様子を毎月更新できたか。	○学年ごとに特色ある行事や特別な授業を積極的に公開した。金管バンドの演奏会や音楽的行事の公開もできた。 ○参加保護者からはおおむね好評だった。 ○学校HPへの教育活動の様子の写真は随時更新した。	A	○今年度多くの行事や授業を公開できたが、参観人数がさらに増えるよう、早めに日程を知らせたり、気軽に参観できるような体制づくりをしたりしていく。公開の機会もさらに増やしていく。	
教職員のキャリア形成に関する取組		4	<p>〈現状〉</p> <p>○R6 学校自己評価「安心・安全」に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童の割合は8割以上の肯定的な回答を得ることができた。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○安全指導の充実・徹底</p>	○確実に迅速な安全点検の実施	○毎月の安全点検を行い、安全主任から管理職までのチェック体制を確立し、不具合等の早期対応を行う。	○安全点検が確実にかつ迅速に実施ができたか。	○毎月の安全点検は確実にできた。集計した内容の報告や修繕の経過等もまとめ方を見直した。必要に応じて、管理職から市教委への修繕依頼もその都度行なった。	A	○毎月の安全点検や臨時の安全点検は、確実に行われているが、学校予算では難しい修繕については遅れ気味のため、市教委に強く働きかけていく。	○学校内外の安全確保については、多くの関係者の協力が必要。学校運営協議会で話し合い、SSN協議会で具体的な取組にしていけるといい。
			<p>〈現状〉</p> <p>○学校課題研修も含め、教師としての資質向上に意欲的に取り組む姿勢がある。自発的な勉強会なども開催している。 ○とても熱心に教育業務に取り組むが、時間の配分がうまくいかず、時間外勤務の規定に近い教員もいる。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○時間外在校時間を意識して業務に当たるようにする。 ○メリハリをつけて、見直しをもって業務に取り組めるようにする。</p>	○安全指導の充実・徹底	○引き渡し訓練、一斉下校、登校指導の実施について改善に向けた取組の充実を図る。	○R7学校自己評価における「安心・安全」に関する質問に肯定的な回答をする児童の割合が R6 より増えたか。	○「安心・安全」に関する質問に肯定的な回答をする児童の割合はほぼ同率94%だった。	A	○訓練等への児童の参加態度は良好である。次年度は、突発的な訓練の頻度も増やしていく。	
		5	<p>〈現状〉</p> <p>○学校課題研修も含め、教師としての資質向上に意欲的に取り組む姿勢がある。自発的な勉強会なども開催している。 ○とても熱心に教育業務に取り組むが、時間の配分がうまくいかず、時間外勤務の規定に近い教員もいる。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○時間外在校時間を意識して業務に当たるようにする。 ○メリハリをつけて、見直しをもって業務に取り組めるようにする。</p>	○管理職との対話を通して教職員一人ひとりが主体的に取り組む個人研修の推進	○教職員一人ひとりが、人事評価当初面談時に、「キャリア振り返りシート」を用いて、課題を明らかに克服するための研修会を管理職と話し合いながら決め、受講する。	○教職員が研修会を受講し、そこでインプットしたスキルを授業や組織にアウトプットできているか。(自己評価シートの研修の成果欄の表記で確認する。)	○当初面談の際、各教職員とキャリアアップのための方策を話し合い、達成状況面談で、その成果を確認した。多くの教職員が研修に熱心に取り組み、外部の研修会に参加できたものもいた。	A	○キャリア段階での差もあるが、研修で得たものを、自クラスの授業等で実践するだけでなく、学校内で共有しているよう、さらに促したり、機会を設定したりしていく。	○教職員の時間外勤務の削減が進んでいることは評価できる。その分、家庭に仕事をもち帰っていたり、しわ寄せが他の教職員に行っていたりしないか教職員の声も聞きたい。 ○時間外在校時間に着目するばかりでなく、仕事量の軽減について評価してはどうか。
			<p>〈現状〉</p> <p>○学校課題研修も含め、教師としての資質向上に意欲的に取り組む姿勢がある。自発的な勉強会なども開催している。 ○とても熱心に教育業務に取り組むが、時間の配分がうまくいかず、時間外勤務の規定に近い教員もいる。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○時間外在校時間を意識して業務に当たるようにする。 ○メリハリをつけて、見直しをもって業務に取り組めるようにする。</p>	○時間外在校時間を意識した勤務への取組	○具体的な数値削減を意識できるように個票に毎月の時間外在校時間を記入させる。 ○ノー残業デーを水曜日に限らず、月1回は定時より前に休暇等を取得して退勤する「プライベートデー」を設定する。	○全職員の時間外在校時間の平均を昨年度の数値より減少させる。 ○プライベートデー取得率を90%にする。	○全職員の時間外在校時間の平均は大きく減少できた。 ○プライベートデー取得は個人差があるが、「ふれあいの日」を作ったことで、多くの教職員が活用できた。	A	○単に退勤時間を早めるのではなく、教育DXを進めて業務を効率化することを、学校としてまた個人として進めていく。	

